

# 湯築城だより 6

YUZUKIJO-NEWS Vol.6

## 特集！湯築城の構造 2

湯築城跡の発掘調査では、城が使われていた室町～戦国時代の土塀・建物・門・道路などさまざまな遺構がみつかりました。

### ●からめて 搦手門 ●●●●●

現在の電車通りがある西側では、搦手門の跡が確認されました。江戸時代に描かれた『湯築古城之図』によると、湯築城は西側が搦手、東側が追手とされています。搦手とは城の裏側で、追手（大手）は城の正面を意味しています。

搦手門付近の調査では、外堀土塁が幅約4mの範囲で途切れ、その城内側に南から続く道路と排水溝が外堀に向かってのびており、門の礎石やその抜き取り跡が確認されました。

16世紀前半（古段階）には、外堀に近い側に門が置かれ、外堀には木橋が架かっていたと考えられます。その後、16世紀後半（新段階）には、城内側に門が付け替えられ、外堀は一部埋められて土橋となったようです。

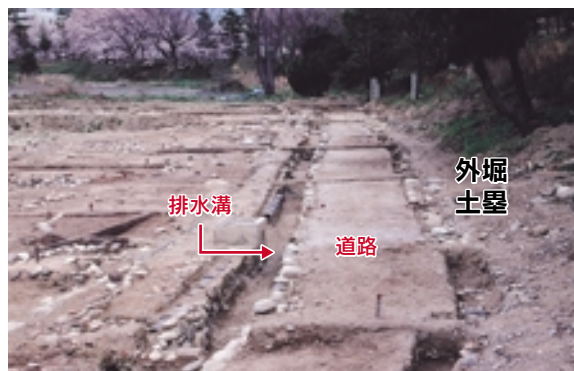


搦手門（新段階の門）の調査（東から）

湯築城は16世紀前半に外堀と外堀土塁が築造され、城内に丘陵の周りの南部、西部、東部の平地部が取りこまれます。復元区域は、面的に発掘調査が行われ、内部が大きく2つの空間に分かれていたことがわかりました。

### ●道路と排水溝●●●●●●●●

南部では、城内をめぐる道路が外堀土塁の内側に沿って設置されています。城内は東から西にむかって緩やかに傾斜しており、道路脇に設けられた排水溝の水は南西隅に集められました。



### ●か しん だん きょじゅうく 家臣団居住区●●●●●●●●



復元区域の西半分は、家臣団居住区です。

家臣団居住区は、道路の内側に土塀がめぐり、<sup>やしき</sup>屋敷の区画は道路と直行する方向に設けられた土塀や溝によって小さく区切られていました。小区画には礎石建物（<sup>とう</sup>屋敷）が一棟ずつ建ち並び、武家屋敷1では屋敷内へ出入りするための門が道路側に設けられていました。

16世紀前半から中頃までは、小区画ごとの敷地面積がほぼ均等で、出土する遺物の内容にもそれほど差が見られません。けれども、火災が起こった16世紀中頃以降、家臣団居住区の北側では、数棟の建物が建つ区画があらわれるなど、ある時期からは、家臣団居住区は均質な区画ばかりではなくなるようです。

16世紀前半から中頃までは、小区画ごとの敷地面積がほぼ均等で、出土する遺物の内容にもそれほど差が見られません。



調査で確認された礎石建物（現在の武家屋敷1）  
（東から）

### いしづみ 円形石積遺構

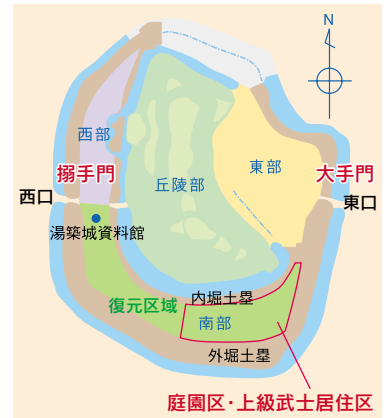
城内では、円形に穴を掘り河原石を積み上げて作った遺構がみつかっています。とくに16世紀の後半には、家臣団居住区の区画に一つずつ道路側に設けられていました。

井戸とするには水の湧く深さまで掘る必要がありますが、この遺構は井戸ほど深さがありません。便所ではないかと考えて<sup>どじょう</sup>土壌分析も行いましたが、寄生虫の卵などは発見できず、今のところはっきりした用途はわかりません。



## ●庭園区・上級武士居住区●●●●●●●●

復元区域の東半分は、庭園区・上級武士居住区です。広大な敷地（4500m<sup>2</sup>）に、池を伴う庭園を配し、数棟の建物が存在していました。また、たくさんの土師質土器の皿が捨てられたゴミ捨て穴の存在から、儀式や宴会を行った場所が近辺にあり、井戸がみつかったことから台所のような施設もあったと推定できます。

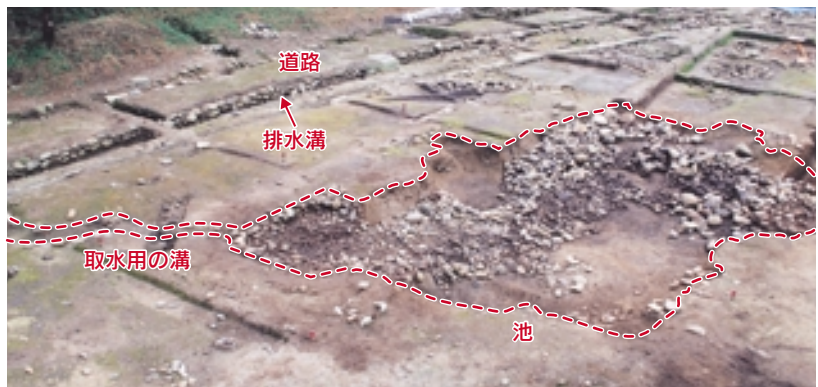


### 池

庭園区南西部で確認されました。長さ約13m、幅約8m、深さ85cmのいびつな楕円形の池の南東隅に、小さく浅い方形の池が接しています。池には道路の排水溝から延びる取水用の溝

が取り付いています。池全体が自然石の石敷きで、花崗岩・砂岩・ホルンフェルスなど近隣で採集できる石材が使われています。

付近には蛇行した石列や何かを抜き取った穴もみつかり、立石などが置かれていた可能性があります。



### 井戸

調査でみつかった唯一の井戸です。円形で石積みのもので、深さは約2.3mあります。

### ゴミ捨て穴

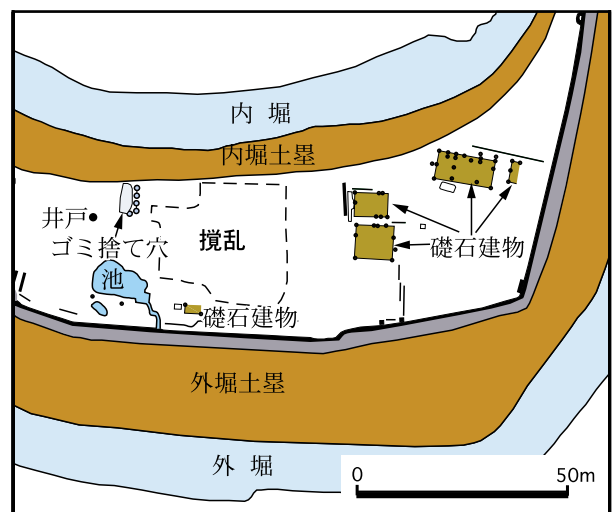
大量の土師質土器皿が捨てられていました。破損した陶磁器、魚骨や貝殻も出土しました。



### 礎石建物

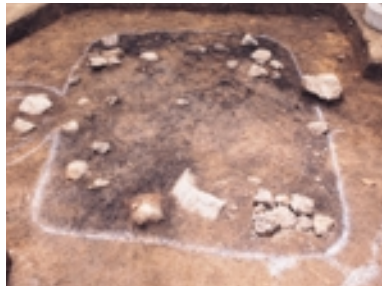
みつかった建物は、家臣団居住区と比較して特に大きいものではなく、軒を接するように建てていたようです。

池の近辺は、動物園の施設によって大きく攪乱（かくらん）されていて詳しいようすはわかりませんが、いくつかの建物などが存在した可能性があります。



## ●その他の地区●●●●●●●●

丘陵部・東部・西部は部分的な発掘調査を行って、どのような遺構があるのかを確認しました。



鉄器の製造に関わる<sup>かじろ</sup>鍛冶炉が多く見つかりました。



外堀土塁より古い段階の内堀土塁が見つかりました。外側に通路があります。



土塁裾の排水溝の石積みを確認できました。



斜面には、土師質土器皿がたくさん堆積していました。



16世紀中頃の礎石建物や、大手門からまっすぐ丘陵部にむかう道路が見つかりました。



大手門と関連する可能性のある礎石が見つかりました。



15世紀にさかのぼる礎石建物がみつかりました。火災にあっています。

## ●まとめ●●●●●●●●

発掘調査によって、家臣団居住区や庭園区・上級武士居住区の存在や、外堀・外堀土塁が築造された時期、またそれ以前にさかのぼる建物が丘陵部に存在したことなど、湯築城の構造やその変遷に関して多くのことがわかりました。

しかし、河野氏の当主が、城内のどこでどのような施設で暮らしていたのかは、いまだ明らかになっておらず、今後の課題といえます。

# ● 出土遺物 ミニギャラリー ●●●●●●●●●●

はじしつどきさら  
土師質土器皿2

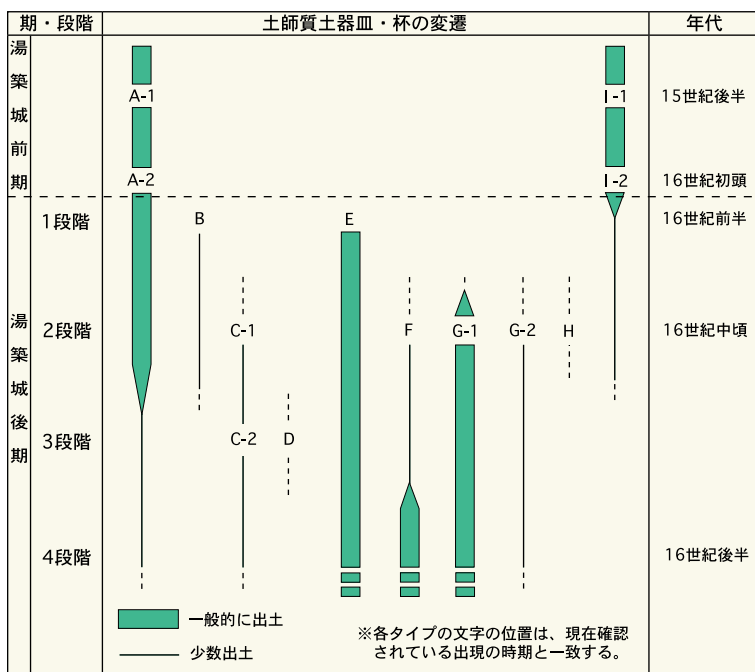
湯築城跡から出土する土師質土器皿には、いろいろな形やつくり方のものがあり、使われている粘土によって焼き上がりの色調にも違いがみられます。

形では、大きく9種類（A～I類）に分けられ、そのうち4種類（A・C・G・I類）は細かく分類できます。つくり方や粘土の違いによっては5種類（1～5群）に分けられます。形（A～I類）とつくり方や粘土（1～5群）は互いに関連しており、A～D類は1群、E・F類は2群、G類は3群、H類は4群、I類は5群に含まれます。

これらの土師質土器皿は、城内で確認されている最も古い段階である湯築城前期の層からはA類とI類、また外堀が掘削されてからは湯築城後期1・2段階でA類、E類、G類、湯築城後期3・4段階でE類、F類、G類が主に出土し、時間の経過とともに使われた土器が変化しています。

湯築城後期にE類、F類、G類といったそれまでとは違うタイプが出現し、儀式や宴会で大量に使い捨てにされる器の大半を占めていく過程は、外堀の掘削という城の拡張工事とともに、湯築城で確認できる重要な変化といえます。

主要な土師質土器皿・杯



## ●中世を知ろう!

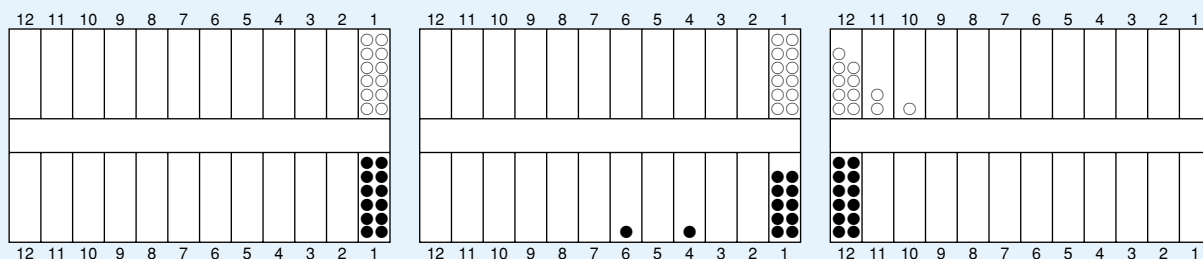
### 中世の遊び

「お正月」の歌にもうたわれる、こままわしや羽根突きなどの遊びはいつから行われていたのでしょうか。中世の絵巻には、町中でこまを回して遊ぶ子供たち（『慕帰絵詞』・南北朝時代）や、中庭や道路で羽根突きをする子供たち（『洛中洛外図屏風』上杉本・戦国時代）が描かれています。また、湯築城跡ではみつかりませんが、中世の遺跡からも遊びに関わる道具類がみつかりました。

中世には、こまは「胡魔」、羽子板は「胡鬼板」ともいわれていました。胡の国（西国）から我が国に来た邪鬼が疫病や災害をもたらすと考えられ、それらを追い払うための「まじない」としての意味も込められていたといわれます。その他に、現在のホッケーのような長い柄のついた槌で木製の毬を打つ毬杖とよばれる遊びも、毬を鬼と見立てたものとして行われ、このような遊びが「まじない」とも深く関わっていたといわれます。

囲碁、将棋、すごろくといった盤上の遊びは、大人の賭博（賭事）の道具として使われました。囲碁や将棋は主に僧侶や武士の間で行われ、すごろくは一般の民衆にまで広く流行しました。身ぐるみはがされ丸裸になってもサイコロをふり続けるようすが描かれるほど人々が熱狂し、たびたび賭博を禁じる法や取締りも行われました。ここで、中世のすごろくの遊び方の一例を紹介します。

### 中世すごろくであそぼう！



1 1のマス目に、白と黒の石を12個ずつならべ、白(先攻)・黒(後攻)をきめます。

2 交互に2個のサイコロを同時にふって、出た目の数だけ石をすすめます。

【出目が4と6の場合】

1つの石を10マスすすめても、2つの石を4マスと6マスすすめてもどちらでもよい。

3 12のマス目ちょうどに、石を移動させれば、あがりです。さぎにあがった方が勝ち！

出目が12のマスをかえる場合、石は動かせません。

【最後、11のマスに一つだけ石が残った場合】  
2つあるサイコロの目の数を進めることは出来ないので、ゲームオーバーです。

#### 参考文献

広島県立歴史博物館編『遊・戯・宴 一中世生活文化のひとこま』1993

松下正司編『よみがえる中世8 一埋もれた港町草戸千軒・鞆・尾道』平凡社 1994

滋賀県立琵琶湖博物館『中世のむら探険—近江の暮らしのルーツを求めて—』第10回企画展示資料

●第3回湯築城跡シンポジウム  
「中世城館の新しいすがたを求めて」  
—能島城跡・河後森城跡・湯築城跡—

平成16年11月28日(日)に、愛媛県教育委員会と(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターとの共催で、第3回湯築城跡シンポジウムを開催しました。

はじめに、国立歴史民俗博物館の千田嘉博助教授から「日本の中世城館」というテーマで講演をいただき、中世城館の発達<sup>せん</sup>の歴史や特徴について理解を深め、その後、県内の三箇所の国指定史跡の特色について、能島城跡は中川和さん(宮窪町教育委員会)、河後森城跡は高山剛さん(松野町教育委員会)、湯築城跡は松村さを里さん(湯築城資料館)が最新の調査研究成果を交えて発表しました。討論では各城跡の特徴を再検討し、政治・文化・軍事・経済など様々な要因が城の形態や立地に影響を与えていることを確認しました。

また、各遺跡において現在行われている活動を紹介し、研究成果を発信したり、遺跡について学んだり、各種の活動を行うことによって、遺跡をより魅力的な場所として活かそうということを確認し閉会しました。

会場となった愛媛県総合福祉会館には200人を越える参加者があり、講演や発表に熱心に耳を傾けました。



●平成16年度湯築城資料館企画展

平成16年7月6日～10月31日の間、武家屋敷2において企画展を開催し、河野氏と関わりの深い芸予諸島の海賊衆と、来島城跡、甘崎城跡などの海城の発掘調査成果について展示を行いました。開催期間中、約6,000人の方々が見学に来られました。

●第16回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア愛媛2004」

平成16年10月9日～10月13日に開催された「まなびピア愛媛2004」に出展し、湯築城跡の遺構・遺物と復元整備の解説や、活用<sup>えいよう</sup>のようすを紹介しました。会場で、烏帽子や市女笠をかぶったボランティアガイドが紙芝居を上演すると、配られた飴<sup>あめ</sup>を片手に多くの子供たちが集まりました。

この出展をきっかけに、湯築城跡でもスタンプラリーを開催し、好評を得ています。



## ●ボランティアガイドの声

### 平成16年度から活動をはじめた第2期ボランティアガイドより

ボランティアガイドをしてみたいと思い、養成講座を受け、ガイドをはじめて6カ月がたちました。

お客様から「ありがとう」とお礼を言われると、胸がキューンとなります。

暑い夏の日、武家屋敷に見学に来た中学生が、にこにこしながら「写真撮ってもいいですか?」と聞いてきました。その子は、自分の先祖が河野氏と関わりがあると考えていて、一緒に城内を見て歩きました。夏が終わる頃、もう一度たずねて来てくれて、声をかけてくれました。覚えていてくれたんだ、と感動しました。

質の高いガイドはもちろんですが、お客様が公園へ来られて楽しいひとときを過ごされて帰られるよう、心に残る真心のガイドをしていこうと思います。



庭園区の池を泳ぐ鯉

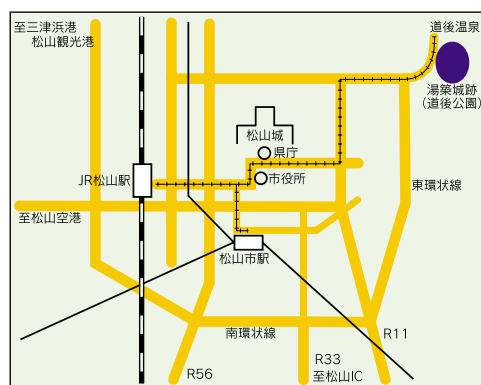
### ●湯築城の自然ひとコマ●

春も近づくと、外堀や庭園区の池の水面を色々の鯉こいが元気に泳ぎだします。道後動物園があった頃の外堀には、体長70センチメートル近い巨鯉かんしゅうもいたそうです。

現代の私たちにとって鯉は、もっぱら鑑賞して楽しむもので、それを食べることは多くありません。しかし中世の武家社会では、大切な儀式や宴会のお膳には、必ずと言っていいほど鯉ぎしき（黒）の刺身えんかいや肝煎きもいりがご馳走ちそうとして盛られていたそうです。

### <<利用案内>>

- 公園  
常時開園（24時間OPEN）入園料無料
- 展示施設  
入館料無料  
9時～17時  
休館日/毎週月曜日（休日の時は翌日）12月29日～1月3日



### ■編集後記■

今年度第3回目の湯築城跡シンポジウムを行いました。第1回目から毎回大変多くの参加者があり、面白かった、今後このような機会があればまた参加したいという声が多く寄せられたことは、とても嬉しく思います。皆様から寄せられた声を励みにがんばっていきたいと思います。（M）

### 湯築城だより 6号

編集・発行 湯築城資料館  
〒790-0857

愛媛県松山市道後公園  
TEL 089-941-1480  
FAX 089-941-1481

[http://www11.ocn.ne.jp/~yuzuki-j/yuzuki\\_top.htm](http://www11.ocn.ne.jp/~yuzuki-j/yuzuki_top.htm)